

第5期 第6回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

- 1 日時 令和4年8月10日(水) 15:00~16:00
- 2 場所 苫小牧商工会議所 6階会議室
- 3 出席
 - (1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員
伊藤委員、遠藤委員、太田委員、奥村委員、佐藤委員、須田委員、高橋委員、
中島委員、長山委員、藤本委員、増田委員
 - (2) 事務局(市)
産業経済部 : 小名部長
産業振興室 : 白川室長
企業政策室 : 木澤室長
商業振興課 : 小泉課長、長谷川主査、高橋主査、江田主事
工業・雇用振興課 : 倉持課長、齋藤主査、今井主査、西村主事

4 概要

(1) 開会

苫小牧市中小企業振興審議会開会(委員15名中11名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている)

(2) 報告

ア 前回の意見交換会の結果について

遠藤副会長より、5月18日(水)の第5回中小企業振興審議会後に開催された意見交換会の結果報告。

《創業と事業承継と販路開拓について》

創業サポート事業については市外の方も対象にして移住政策とも兼ね合わせてみてはという意見と、高専の予算で創業を促したり、講師を呼んでセミナー開催できるお話があり、自分事と捉えられるような仕組みでトークショーとか意見交換できる規模でやれば参加者が増えてよいとの意見あり。

《販路の拡大》

ECサイトの構築やターゲットを限定するためのコミュニティー創出、また、多くのコンテンツの提示が考えられ、どう取り組むかが課題とのお話あり。とまこまいWEB商店会にて、楽天への共同出品や広報活動などをしてるので、こういったコミュニティー構築を進め、課題や新しい取組が考えられるとの意見あり。

《事業承継》

同友会や会議所、銀行でも多くの情報を取り扱っており、情報提供やPRを今後していきたいとの意見あり。

商工会議所で行った事業承継のアンケート結果速報版を提出し、内容説明。

- ・事業承継について考えたことはありますか・・・あるが65%
- ・代表者の年代・・・60代、50代、70代以上と、同程度

- ・後継者はいますか・・・いるが54%
 - ・具体的な準備をしてますか・・・着手してるが50%、してないも50%
 - ・きっかけは何でしたか・・・親族との話合いが52%、商工会議所等々の取組が3%、金融機関からのアドバイスが18%、士業関係からのアドバイスが16%、外部セミナーが10%。
 - ・なぜ着手していないか・・・進め方が分からないが4%、候補者からの了解が得られていないが4%、通常業務で忙しいが17%、まだまだ時間に余裕があるが73%で特徴的な結果。
 - ・今後はどうしますか・・・時間的に余裕があるが58%、事業承継をしますが22%、廃業する予定が12%、売却する予定が6%。廃業予定の12%を何としても止めたいと思う。
 - ・事業承継の課題は何か・・・後継者の不在が22%、後継者の教育がまだが26%、借入金や債務保証の引渡しが14%、株式譲渡が15%、取引先との関係維持が14%、親族間の相続問題が6%。
 - ・事業承継の相談先は・・・家族が18%、友人・知人が5%、同業者が15%、商工会議所が8%、士業の方が27%、金融機関が13%、無いが13%。
 - ・どういった支援策が必要か・・・セミナーが10%、資金調達が21%、磨き上げが8%、譲渡側の支援が14%、特にないが45%と多くて残念な結果。
 - ・今後何の機関を紹介・相談機関として希望するか・・・商工会議所が11%、引き継ぎ支援センターが8%、士業の方が10%、特に希望しないが70%。
- 詳細を検討後に感想等、今後述べさせていただきます。

《情報発信》

支援策の情報発信として、フェイスブックやLINE、とまサポがあるが、中身、支援策を並べるだけではなく、ケース・スタディーや使った人の声などを載せて、補助金を利用して何かやろうという意識にすることも載せたいとの意見あり。

《人材についての導入》

学生のインターンシップが話題になり、学生以外にも、中途採用、Uターン、Iターンや、外国人雇用についても検討が必要という話があったという内容の報告あり。

事務局より、報告の補足として、市で行う有償インターンシップ支援事業について説明。事業自体はスタートしており、企業の募集を受託事業者が行っている段階であることを伝えた。

(3) 議事

ア 苫小牧市中小企業振興計画別冊（案）について

事務局より資料1、資料2に基づき、今年度更新を行った中小企業振興計画（別冊）について、新規事業が2つあり、全部で56事業となったこと、昨年度作成した新型コロナウイルス対策事業についてまとめた別冊を、今年度はコロナ禍における原油価格や物価高騰の影響に対しての支援が実施されるなど、事業の背景や目的

が変化してきたことから、地域経済対策に係る事業一覧としてまとめた別冊を作成したこと、本日現在で全事業が実施されていることを説明。

---質疑なし---

イ 第二次苫小牧市中小企業振興計画素案（人材確保及び人材育成の強化）について

事務局より「第二次苫小牧市中小企業振興計画素案（人材確保及び人材育成の強化）」について説明。本案はこれまでの審議会議論等を踏まえた素案であり、第3回の審議会にて提出した骨子案を基に肉付けや整理を行ったもので、これをベースに議論を進めていただきたいことを説明。

○須田委員

「マイナビ2023掲載企業を募集します」という資料にて、具体的にオンライン説明会の動画のみの参加か。

●事務局

具体的にはマイナビ就職EXPOという、札幌ドームでの大きな就職説明会に参加でき、ウェブ上でやっているサイトに登録が可能。ウェブの動画の撮影や、任意の就職説明会、就職セミナーにも参加可能である。

○須田委員

このイベント、3月16日に2024年度春の就職者向けならば開催時期が遅い気がする。それ以降も、5月、7月ならば理系だともう終わっている。1か月ぐらい前倒しできないものか。

●事務局

大学生の就職の解禁が3月1日であり、それ以降の日程となる。遅くはなるが、大企業に落ちた学生やお盆で規制する学生をターゲットにするため、開催月がばらけている。

○須田委員

了解した

○中島委員

この事業でマイナビを利用して実際具体的にサポートとしてやるのは良い。マッチング支援事業の目標掲載件数500件、中小企業人材育成補助金の利用人数35人は、目標そのものも増やしたい。「とまジョブ」等をメインで案内をし、理解、認識あるかと思うが、市内の99%を占める中小企業の何%が認識しているかと考えれば、このレベル感で目標を立てて着実に進めていくべきか、もっと規模感を広げるための活動を考えるべきか、見えてくるかと思う。もっと広まって、もっと利用する方が増えれば、本当に良いというのが根底にある。（意見）

○高橋会長

ポータルサイト及び「とまジョブ」に関して、まだまだ認知や利用件数は上がってきてないという現状認識。その利用の仕方や、広報促進についての議論をまた別の機会で行いたい。

●事務局

「とまジョブ」は、当初は新規採用をメインターゲットとして立ち上げたサイトであるため、基本的に毎年新規採用されるような企業の登録が多く、最近は中途採用やパートの採用も積極的に求人掲載できるということで、ターゲットを広げている。掲載登録企業は毎年100社程度ずつ増やしており、引き続き周知に努める。

○中島委員

港まつりみたいなところで、「とまジョブ」って宣伝したらどうか。

○高橋会長

人目に触れる機会をつくっていくことが必要。

●事務局

例えばイオンのデジタルサイネージで「とまジョブ」やなでしこなど、市の事業を周知させてもらうとか、工夫についてはさらに尽力したい。

○高橋会長

市の公式LINEにも「とまジョブ」が載っている。実際に市民の方々、事業者、経営者の皆様方がこれをどこまで本当に目に触れているのかというのは、本当に考えていかなきゃいけないのかなというふうに思う。

ウ 苫小牧市の現状について

事務局より、中小企業振興計画の3本柱につながるバックグラウンドの部分として、各種データ等を提示し、説明。

○藤本委員

「倒産件数の推移」の最後の文面で「これらのことから、今後は収益体制が回復しない状態で融資の返済期を迎え」というのは、「返済開始」と言ったほうが良い → 事務局了承。

(4) その他

高橋会長より、次回審議会が令和4年11月16日(水)13:30～(場所は未定)で実施予定であり、後日事務局より日程通知があることを説明。

次期中小企業振興計画素案については、これまで徴取した意見より素案を修正し、次回の審議会前に一度全体像をメールで送付し、確認した上で次回の審議会にて計画の全体論の議論を深めていくことを確認。また、本審議会終了後、引き続き意見交換会を実施することを説明。

(5) 閉会